

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書											
通番	事務事業名称	広陵町男女共同参画審議会						所管部署	課名 協働のまちづくり推進課		
(ア) 総合計画上の位置づけ											
施策	番号	施策名				展開方向	番号	展開方向名			
	5-5	男女共同参画の推進					3	男女共同参画に対する理解と関心の推進			
(イ) 実施内容・体制											
協働する相手		広陵町男女共同参画審議会委員									
協働実施手法		3-1 審議会、策定委員会等									
協働者	具体的な協働者	学識経験者、町の関係団体の代表者、公募委員などからなる広陵町男女共同参画審議会委員						⑨ 母数	15人		
目的・期待	目的	公募による委員を含む審議会を開催し、さまざまな分野及び立場から選出された委員からの意見を、男女共同参画社会づくりの施策に反映することを目的とする。令和4年度に広陵町男女共同参画後期行動計画を策定したことから、町や関係団体を含めさまざまな主体が連携しながら男女共同参画やジェンダー平等を推進する。									
事業内容	事業内容	過年度の男女共同参画事業の進捗評価、男女共同参画やジェンダー平等への提言など ※審議会は年1回であったが、年2回を検討									
(ウ) 事業費											
事業費(決算(見込)額・予算額)		単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性
		千円		0		144		35		144	維持
今後の方針		拡大 拡大・縮小・廃止の理由 行動計画に基づき、男女共同参画やジェンダー平等を推進する。									

令和 6 年度 事業評価						参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価		協働する相手の評価			
5	4	3	2	1		目的共有	対等性	自主・自立	相互理解	情報公開・透明性	評価・見直し	相互変革	合計		総合評価	
					全然できなかった	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	26	26	A	A
総合評価						A評価	B評価	C評価	D評価	E評価						
						35~26	25~21	20~16	15~11	10以下						

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	率直な意見を聞くことができた。今後も、それぞれの立場で男女共同参画について推進していける様にしたい。	さまざまな立場の委員から、現場での率直な思いを出し合い、検討する課題について、真摯に意見交換が出来、本町の男女共同参画のまちづくりに向けて互いに尊重する関係を築くことが出来た。
協働することで感じた課題や今後の方向性	意見を深めたり、町の施策に落とし込むまではできていない。全庁的な取り組みとしての認識を職員がする必要があると感じる。	多方面の課題については、話し合いを深めることにおいて不十分であり、今後は、最も検討が必要とされる課題に絞って話し合いをする場や機会の設定が必要であると考えます。